

⑭小規模な基盤整備により山間地の茶園を再生 【白鳥 勝之（静岡市）】

基盤整備

生産性向上

■活用した事業

「令和4年度 農地耕作条件改善事業（県営経営体育成樹園地再編整備事業（農地集積加速化型））」を活用し、茶園の基盤整備を実施。

■経営の概況

静岡市葵区玉川地区において、生産から荒茶製造（一部製茶）まで行う茶農家。同地区は静岡本山茶の産地として知られ、「玉川茶」の名称で親しまれている。

栽培面積は約3haで、主な栽培品種は「やぶきた」。販売先は、従来から取引のある茶商が約9割を占め、残りは父の代からのお客様や、自社で立ち上げた商品ブランドを通じて販売している。煎茶のほか、和紅茶やほうじ茶の製造にも取り組んでいる。

■取組内容

当該茶園（66a）は7戸の茶農家が小規模な管理をしていたが、6戸が栽培管理を止め放棄茶園になってしまった。良質な茶産地として評価されている地域の茶園を未来へ繋げるため、自らがこの茶園管理を行うことを決意し、6戸の農家から承諾を得たうえで県農林事務所に相談し、基盤整備を実施。

基盤整備以前は、畝方向が統一されておらず、乗用型管理機を使用できない状況であったため、乗用型管理機での作業が可能となるよう、畝方向を統一し、枕地を確保した。

基盤整備は令和4年の11月から令和5年2月までの正味3か月で実施され、3月に苗の植え付けをした。

茶園は現在（令和8年2月時点）育成中であるが、乗用型管理機が入れるように園地を整備し、畝方向を統一したことから、今後は生葉の効率的な摘採や各種管理作業の省力化が期待される。



基盤整備前の茶園（一部荒廃茶園あり）
※国土地理院データを加工して作成



基盤整備後の茶園（北側ほ場）



基盤整備後の茶園（南側ほ場）